

原発の風評被害を 防ごう マスコミ関係者に訴え



福島 2011.4.29



黒い雨に濡れたトマトを、洗って食べた
記憶が沖田医師にはあるといいます

原発事故による風評被害の拡大を防ぐための「放射線の基礎知識セミナー」が4月29日、福島県内で開催されました。緊急被曝アドバイザーとして福島県に派遣された広島県赤十字血液センター所長の沖田肇医師らがマスコミ関係者を対象に開いたもので、8社から16人が参加しました。

広島に原子爆弾が投下された時、3歳だったという沖田医師は「広島の人たちを苦しめたのは差別や偏見。偏見は正しい情報がないところから生まれ、人の心を傷つけます」と熱弁。「危険区域以外の微量な放射線に対する過剰な反応は必要はありません」と強調し、冷静な報道を呼びかけました。

[HPへ](#)

出典：赤十字新聞2011年6月号 P.6